

報告事項ト

「豊かな人権文化を築く学校づくり事業」の成果と今後の
取組について

「豊かな人権文化を築く学校づくり事業」の成果と今後の取組について、別紙
のとおり報告します。

令和4年3月19日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

「豊かな人権文化を築く学校づくり事業」の成果と今後の取組について

令和4年3月19日
人権教育課

学校・家庭・地域が連携・協働し、豊かな人権文化を築く資質を備えた児童生徒を育成する学校の研究・取組を支援し、その成果を人権教育プログラム集として県内に普及させるため、事業実施校3校において授業実践とPTA人権教育研修を行うことができた。(2年計画の2年目)

今後も学校・家庭・地域が連携・協働していじめ防止等に取り組むことの大切さを普及し、豊かな人権文化を築く資質を備えた児童生徒を育成することのできる魅力ある学校づくりを進めていく。

1 事業実施校における取組(2年次)について

実施校	学校での取組	PTAでの取組
倉吉市立高城小学校	<p>自他のよさや成長を生かす方法について考えることを通して、子どもたちがともに成長し、人権が尊重されたより良い学校づくりを目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分や友だちのよさを理解し、それをどのように生かすか(生かせるか)を考え、実践する意欲を高める学習を6年生で実施した。  <ul style="list-style-type: none"> ●アンケートで「自分には良いところがある」との回答が上昇した。(令和3年度:全体87.0%、6年100%、令和2年度:全体79.8%) ●講師を招聘し、子どもたちの主体性を発揮させるために教師に必要なことを学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修会では、子どもの自尊感情を高めることの意義を理解し、そのためにできることは何かを保護者同士で話し合った。 ●参加者は、子どもに対する気持ちや日常の言動を振り返りながら、子どもの自尊感情を高めるためのスキルや心持ちについて学ぶことができた。 
米子市立福米西小学校	<p>性の多様性について触れることを通して、自分の好きなものや好きなことを、自信を持って「好き」と言えるようにするためにはどうしたらよいかを考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1年生を対象に、誰もが自分の好きなものや好きなことを、性別に関わらず自信を持って「好き」と言えるようにするにはどうしていけばよいかを考える学習を実施した。  <ul style="list-style-type: none"> ●授業研究会の際には、多様な性のあり方、性的マイノリティについて教職員全体の理解を深めるために、外部講師を招いて、教職員研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生の学習と同様に、性別に関わらず自分や子どもが好きなものや好きなことを「好き」と言えるようにするにはどうしていけばよいかを保護者が考えるプログラムを作成した。 ●男、女だからという考え方ではなく、「自分」を主体として考えることの大切さとともに、多様な性のあり方についても考えてもらう機会となるようプログラムを構成した。 ●PTA研修を行う予定で日程を調整していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施できなかったため、学習資料等を配布し、家庭で親子が学び合うことができるようにした。

南部町立南部中学校	あらゆる差別を容認、温存してしまう要因や誰もが安心して暮らしていくことができる社会をつくるために大切な視点を考えることを通して、人権尊重の社会づくりの担い手の育成を図った。	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 3年生を対象に、部落差別をはじめとするあらゆる差別に対して、当事者意識を高め、自分にも差別をなくす力があるという自覚を深めることをねらいとした学習を展開した。 ● 生徒は資料をもとにして考えたり、話し合ったりすることを通して、自らのあり方や生き方を問い直しながら学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の学習をもとにして作成したプログラムを活用して研修を実施した。 ● 研修会では、生徒の学習の様子や感想にもふれながら、誰もが安心して暮らしていくことができる社会をつくるために大切なことについての理解を深めた。
		
<ul style="list-style-type: none"> ● 人権教育参観日では、授業参観終了後に、「人権文化を考える『幸せを運んだ人形たち』」をテーマとした人権講演会を開催し、生徒、教職員、保護者、地域住民が伝統的な文化とその背景にある「差別」との関係等を学んだ。(講師：阿波木偶箱まわし保存会・徳島県) 		

2 ファシリテーター派遣事業について

人権教育プログラム(社会教育編)等を活用した保護者等への研修の実施を希望する学校(P T A)等に対し、学習促進者となるファシリテーター(各市町村の人権教育推進員等)を派遣した。

<派遣実績 ※ (): 昨年度実績>

派遣した学校 P T A 等	市町村数	学校 P T A 等の数	参加人数
公立小学校 P T A	5 (4)	15 (9)	507 (191)
公立中学校 P T A	6 (5)	8 (8)	180 (255)
義務教育学校 P T A	1 (0)	1 (0)	23 (0)
県立学校、その他		1 (2)	12 (60)
合 計		25 (19)	722 (506)

<参加者アンケートより>

全学校・P T A 対象項目	肯定的回答 (%)	参考 (昨年度・一昨年の数値)
新しい気づきや疑問が生まれるものでしたか。	97.1%	R 2 :97.1%、R 1 :97.6%
進んで考えたり、話し合ったりできましたか。	98.3%	R 2 :98.3%、R 1 :96.6%

リポート校(継続して事業を活用している学校等)対象項目	肯定的回答 (%)
いじめの未然防止に向けて、親子の関わりを大切にしていますか。	98.0%
いじめの未然防止に向けて、保護者同士の関わりを大切にしていますか。	88.5%
いじめの未然防止に向けて、学校(先生方)との関わりを大切にしていますか。	87.8%

3 今後の取組について

今後も県内の各地域、各校区へこの取組のよさを広めていく必要がある。そのため、令和4・5年度も新たな事業実施校を指定し、「人権教育プログラム集」(今年度作成した指導案・プログラムを含む)を活用しながら、学校・家庭・地域が連携・協働していじめ防止等に取り組むことの大切さを普及し、豊かな人権文化を築く資質を備えた児童生徒を育成することのできる魅力ある学校づくりを進めていく。